

議案第 31 号

令和 7 年度板橋区登録文化財の諮問について  
上記の議案を提出する。

令和 7 年 7 月 24 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 長沼 豊

令和 7 年度板橋区登録文化財の諮問について  
板橋区文化財保護条例第 4 条第 2 項及び第 13 条第 3 項並びに第 19 条  
に基づき東京都板橋区文化財保護審議会に諮問する。

記

1 諮問内容

板橋区文化財として新たに登録・指定することについて（3 件）

（1）有形文化財（彫刻）

西光寺弘法大師像

（2）無形文化財（工芸技術）

江戸筆制作

（3）有形文化財（歴史資料）

紅梅小学校校史資料（追加登録）

（提案理由）

上記案件が、板橋区文化財保護条例第 4 条第 1 項に規定する登録文化財、  
あるいは、同条例第 13 条第 1 項に規定する指定文化財のいずれかに該当  
すると思われるため、同条例第 4 条第 2 項及び第 13 条第 3 項並びに第 19  
条に基づき諮問する。

## 令和7年度板橋区文化財保護審議会諮問概要

### 1 西光寺弘法大師像

- (1) 名 称 西光寺弘法大師像（さいこうじこうぼうだいしぞう）
- (2) 所在地 板橋区大谷口2－8－7
- (3) 所有者 宗教法人西光寺
- (4) 種 類 有形文化財（彫刻）
- (5) 内 訳 1 軀
- (6) 来歴・内容及び諮問理由

【宗派】真言宗豊山派

【山号】宝樹山（ほうじゅさん）

【院号】盛徳院（せいとくいん）

【本尊】聖観音菩薩坐像（しょうかんのんぼさつぞう）

西光寺は、江戸時代初めに建てられた寺院。本尊の両脇に、真言宗を開いた弘法大師空海（こうぼうだいし くうかい）と興教大師覚鑁（こうぎょうだいし かくばん）の像がある。弘法大師像のほうは、像の内側に「霊雲寺／大仏師／法橋幸慶／作」（れいうんじ／だいぶつし／ほっきょうこうけい／さく）とあり、制作年代は不明だが、制作者がわかる。

霊雲寺は、東京都文京区湯島にある真言宗寺院である。元禄4年（1691）に江戸幕府5代将軍徳川綱吉から土地を与えられ、寺院が建てられた。この寺院の仏像職人（仏師）として活動していたのが「霊雲寺大仏師法橋幸慶」である。幸慶は徳川家に出入りしていた仏像職人で、神田鍛冶町に工房を持っていた。板橋区の西光寺弘法大師像を含めて7件の制作事例があり、内訳は栃木県3件、東京都2件、埼玉県1件、神奈川県1件である。

徳川将軍家と関係のある仏像職人の活動を調査することで、江戸時代の板橋の信仰文化を明らかにする上で貴重な資料である。

西光寺弘法大師像



## 2 江戸筆制作

- (1) 名 称 江戸筆制作（えどふでせいさく）
- (2) 所在地 板橋区板橋3-40-17
- (3) 保持者 佐久間 悟（さくま さとる）
- (4) 種 類 無形文化財（工芸技術）
- (5) 来歴・内容及び諮問理由

佐久間悟氏が継承する江戸筆は、分業制による関西筆とは異なり、素材の入手から筆先や軸などの加工・仕上げ等の全工程を一人で手掛けるという技法をとる点に特徴がある。

江戸筆制作の保持者である佐久間悟氏は、昭和49年（1974）6月に板橋区で生まれ、現在51歳。幼少の頃から父・末男氏の製作作業を見ながら、筆の仕込み作業を手伝っていた。

父末男氏は昭和17年に新潟県で生まれ、埼玉県朝霞市で筆制作をしていた兄に弟子入りし、その後、練馬区の宮沢源之助商店で修業、同57年に現在地に工房兼店舗の「鳳竹堂」を構えた。

悟氏は、専門学校卒業後、父末男氏の元で、仕込み作業を繰り返し行い、材料を覚えるなど、本格的に修業をはじめ、現在で職歴は30年を超える。

現在、悟氏は鳳竹堂の2代目として末男氏の後を継ぐが、特筆すべき点として、毛筆の生産性に加え、美しく毛並みが揃うことを重視する「練りませ」技法を伝承している。

板橋伝統工芸保存会に所属し、区内の伝統文化普及活動にもあたっている。

佐久間悟氏



江戸筆



### 3 紅梅小学校校史資料（追加登録）

- (1) 名 称 紅梅小学校校史資料（追加登録）  
(こうばいしょうがっこうこうしりょう)
- (2) 所在地 板橋区徳丸8-10-1
- (3) 所有者 板橋区立紅梅小学校
- (4) 種 類 有形文化財（歴史資料）
- (5) 内 訳 20点程度
- (6) 来歴・内容及び諮問理由

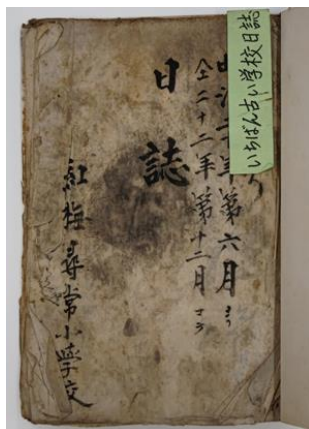
令和6年（2024）に区内で最初に開かれた小学校2校が創立150周年を迎え、そのうちの1校が紅梅小学校である。紅梅小学校は明治7年（1874）に安楽寺（徳丸8-9-1）内に設立され、同年7月19日付で私立学校として認可され、翌8月25日に「第四番中学区第五番小学 紅梅学校」として公立学校の認可を受けた。

紅梅小学校が所蔵する校史資料は、平成19年度に271件が区登録有形文化財（歴史資料）に登録され、翌20年度に260件が追加登録された。当該資料は、創立時からの学校経営に関する文書史料や、開校百周年記念事業で集められた教科書や写真等があり、創立期からの学校教育の様子や、それを支えてきた地域の歴史を伝える貴重な資料である。

創立150周年に際し、郷土資料館において「紅梅小学校創立150周年記念展 そのかぐわしき名をあげよ～徳丸村の学び舎から～」を開催するために調査を行った。その際、すでに登録されている資料よりもさらに時代をさかのぼる明治20年の学校日誌をはじめ、創立期の資料の所蔵が新たに確認された。その他にも、創立100周年以降の周年関連の資料も保管されており、今回これらの文化財的価値を明らかにし、追加登録を行いたい。

学校日誌

（明治20年6月～明治22年12月）



改正生徒授業料取立控帳

明治16年（1883）1月27日

